令和３年度委員長所信表明

全日本教職員連盟　第14代委員長　島村暢之

今、全日教連だからこそできることがある

～会員の、そして国民の負託に応える～

この度、単位団体の信任を賜り、昨年度に続き全日教連委員長の大役を仰せつかることになりました島村暢之でございます。昨年度の経験を糧に、会員の皆様のために、子供たちのために、そして我が国の教育のために、役員一同、一致団結し全力を挙げて職務を遂行して参る所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

全日教連並びに教文研会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながらの教育活動の推進、特に、子供たちの学びの保障について「教育専門職」としての誇りを胸に日々御努力いただいていることに対しまして、先ず以て心より厚く御礼申し上げます。

【最新の教育情報を迅速に会員へ】

新型コロナウイルス感染症禍の中において、教育活動を推進していくためには、何よりも文部科学省が発信する様々な情報の把握が重要です。加えて、未

知のウイルスであるために、研究が進み新たな事実が解明される毎にその情報が上書きされていくために、「最新」をキャッチしアップデートしていくことが不可欠です。

学校の設置者から情報が降りてくるのを待っていては、「最新」ではなくなっている可能性も否定できません。昨年度、全日教連は【情報提供】として単位団体等に対して、およそ100通のメールを発信しました。今年度も会員の皆様に、「最新」の中央の情報を届けるべく、今年度もアンテナを高くして、活動して参ります。

【国民の負託に応えるために】

全日教連は、本年度結成38年目となりますが、これまでの諸先輩方の活動の積み重ねにおいても、大きな成果を得てきています。それは、信頼です。

昨年度も以下のような施策推進等に関連し、意見を求められたところです。

○　教職を一度退職された先生方の人材バンクへの登録について

○　新型コロナウイルス感染症対策における学校現場を支える施策推　進について

○　秋季入学について

○　部活動改革の方策について

○　「新しい時代の初等中等教育の在り方」について

○　わいせつ教員根絶に向けた施策について

文部科学省や国会議員の方々から、多岐に亘る事柄について現場の意見を求められることは、これまで諸先輩方が、「教育専門職」として真摯に児童生徒への教育を推進し、信頼を勝ち取ってこられたからこそです。

これから令和の日本型学校教育を構築していく中で、引き続き、国民の負託に応えるべく、会員の皆様におかれましては、心をひとつに未来を担う子供たちのための活動をよろしくお願いいたします。

【要望・提言活動をより充実させるために】

昨年度、全日教連は、コロナ禍においても児童生徒の学びを保障すること、そして現場教職員を支えることを要望・提言の中心に据え、活動を展開して参りました。その中で、最大の成果は「小学校における 35 人学級化」の実現です。これにより、令和３年度から５年間掛けて、段階的な定数の改善が行われます。これは偏に、会員の皆様からのお声、そしてそれを形にした署名簿があったからこそです。

全日教連は、「現場の声を集める」ということについて、新しい取組をスタートさせます。それが、毎月本教育新聞で告知する「アンケート直問直答」です。新たにこれを実施することで、「今」現場で起きている課題を把握し、「直近」の要望・提言に生かすことを目指します。初めての試みですが、停滞は衰退の第一歩と言います。変化無くして発展無しの気概をもって、要望・提言活動の更なる充実を目指します。

【充実した質の高い研修を実現するために】

全日教連は、教職員を単なる労働者ではなく教育専門職と定義しています。これは他の教職員団体と大きく異なる部分です。私たちは、国民の負託に応えるために、そして、未来を担う子供たちのために、常に研鑽に励み、自らの資質・能力の向上に努めなければなりません。

校種や職種を超えて集う会員に、共に学び合い、研鑽を積むことができる研修の場を提供します。昨年度途中からは、単位団体の研修・講演等を他の単位団体会員にも参加資格を拡大するように依頼し、団体の垣根を越えた研修・交流が可能となりました。今年度も、この取組を支援して参ります。

要望・提言活動の充実、そして組織の強化・拡大には、会員の皆様の力を結集することが必要です。全日教連にしかできないことを実行するために、活動への御理解、御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。